

かれ、車両や身体検査などが行われていました。また、関係者や居住者などにはチェックポイントを通過するためのIDカードが発給されその種類により、政府関係者・プレス関係者・住民を識別できるようになっていました。ちなみに安倍総理は赤のIDカードだったそうです。

マスコミとの対応

サミット期間中のジャーナリストの数は5千人以上と推計されました。首脳会議場を取材できるプレスの数は制限されていて、公式放送や公式カメラマンのみで行事の模様をカバーしていましたので、取材できないプレスは、プレスセンターで対応していただきました。このような状況の中、24時間体制で全世界へ情



国際メディアセンター

報を発信している各国プレスには、手厚い対応がなされ、サミット運営の上で重要な位置づけがされていきました。当町開催時においても、PR戦略上重要な位置づけが必要と感じました。

デモとサミット

ドイツでのデモ参加者が数万人に及んだ背景には、開催国がヨーロッパの内陸部にあり、移動が容易なことと夏休みなどを利用しての参加者が多かったとされています。私がサミット終了後に訪れたキャンプ地では約5千人がいたそうで、現地の活動家に話を聞くと、「目的はメディアを通して自分たちの活動を世界にアピールすること」と話してくれました。(ちなみに私はドイツ語ができませんので通訳を介しての話です。)「投石など過激な人がいましたが、我々は平和的な活動を行っており、彼らとは一線を引いている」と語り、限られたごく一部の人たちであることを強調していました。また、来年日本で開催されるサミットに來ますかとの質問には、「日本は遠くてお金もかかるので参加できないがゼロ

ではないだろう」と語っていました。



警察の警備船

歓迎の内容

フランクフルト空港からベルリン空港に至るまでG8関係のポスターなど一切見ることはなく、ハイリゲダム周辺でも同様で当初イメージしていた現状の違いに驚きました。あるのは主会場・G8会場に掲揚された各国の国旗のみで、町全体が自然体で穏やかに時間が過ぎていく状況でした。お国柄なので、よう、洞爺湖サミットでは日本人的なおもてなしをして、全世界へアピールしなければとの気持ちに改めてなりました。

地域と一体で来年のサミットの成功を

ドイツサミットの現地に赴き

サミット推進町民会議設立

6月15日(金)、役場庁舎内に、来年7月7日～9日に開催される北海道洞爺湖サミットの準備を担う「洞爺湖サミット推進本部」が長崎町長を本部長として置かれました。

また、28日(木)には、「北海道洞爺湖サミット推進町民会議」が、町内の行政組織・経済団体・町民団体などを構成メンバーにして設立され、これにより全町あげて支えていく体制が

確立。サミットの開催地としての準備活動が本格的に始動しました。



北海道洞爺湖サミット推進町民会議設立

いろいろな場面を見聞することができたことは、私にとって大きな財産であると感じて、これからの1年が長いのか短いのかは分かりませんが、地域を上げて取組んでまいりたいと考えて

おります。洞爺湖町の自然やそこに住む住民の素晴らしさを全世界にアピールするため皆さま方のお力添えをお願い申し上げます。報告とさせていただきます。